

第1学年国語科学習指導案

時間・場所 公開授業③ 1年4組教室
学 級 1年4組 33名(男子14名,女子19名)
指 導 者 佐藤 叶望

1 単元名 いにしえの心に出会う

学習教材名 「蓬莱の玉の枝—『竹取物語』から(光村図書 国語1 P147)」

2 単元について

小学校の教科書にも「竹取物語」や「枕草子」,「平家物語」の冒頭文を音読する単元が組み込まれており,古典について触れてきてはいるものの,本格的な学習は中学校からである。しかし,昔話に親しみのある生徒は多く,無理なく古典の学習に入っていくことは期待できる。生徒の積極性や主体性を生かしながら,個の気づきや考えを交流する学習活動を取り入れたい。

本教材は「物語の出で来はじめの祖」として,現在伝わっている日本の物語の中では最も古いものとされている。「かぐや姫」を想起しながら,生徒が興味・関心をもって読むことができる作品であるため,初めての古典にも抵抗なく入り込める上,原文の左側には歴史的仮名遣いの読み方が付せられており,古文のきまりや音読の仕方などの古典の基礎を学ぶのにふさわしい教材であると考えられる。

音読を通して,古典特有のリズムを味わうとともに古典の世界に親しませたい。語句や表現の特徴に注意して原文と現代語訳を読み,展開やあらすじを理解することで,物語の面白さにも気づかせていく。また,作品を通して,現代に通じる人々の考え方やものの見方について考えさせていきたい。

3 単元目標及び評価規準

(1) 単元目標

- ・古典の文章に出会い,古典特有の文章のリズムなどを味わう。(伝統的な言語文化(ア))
- ・伝統的な言語文化に触れ,現代とのつながりについて考えを持つ。(Cーイ)

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化
物語や古典の面白さを味わい,古典に対する興味や関心をもったり,それを表現したりしている。	現代と比べながら,登場人物の心情や行動を捉え,物語の展開や表現に着目して自分の考えをまとめている。	歴史的仮名遣いや古典の意味に注意しながら,リズムよく音読したり,物語の面白さについて考えたりしている。

4 単元計画 (総時数5時間)

次	時	主な学習内容
1	1	「いろは歌」「月に思う」を読み,古典のリズムや表記に触れ,古典への関心を持つ。
2	2	冒頭部分を読み,古文のリズムに親しみながらあらすじをつかむ。
	3	「くらのちの皇子架空の冒険談」を読み,皇子の心情を想像し,現代とのつながりを考える。【本時】
	4	姫が昇天する場面を読み,登場人物の言動から心情を想像する。
3	5	古典の世界を味わいながら物語全体を振り返り,学んだことを確認する。

5 本時の指導（3／5）

（1）目標

どんな気持ちで架空の冒険談を物語ったのか、根拠をもって皇子の気持ちを想像しよう。

（2）「振り返り」の工夫

本時で「どんなことを考えたか」「どんなことをわかろうとしたか」に焦点を当てて振り返りを行い、前向きに取り組むことができたことを自覚したり、それによる喜びを味わったりすることで今後の学ぶ意欲につなげたい。また、「どのようなプロセスで自分の考え方が変容したか」も自分の言葉で記述させることで単元を通して振り返る際にも活用し、学びを価値づける。

（3）展開

段階	学習活動	指導上の留意点と評価（ <input type="checkbox"/> ）
導入 5分	1 前時の復習をし、本時の学習内容を把握する。 2 本時の課題を確認する。	
展開 40分	3 くらもちの皇子の人物像を捉える。 ・現代語訳を読み、内容を捉える。 ・言動を根拠にしなが、皇子の人物像について考える。	3 物語のあらすじをつかみ、皇子の言動を確実に おさえさせる。 根拠を明確にして自分の考えを述べている。 【発言】
	4 架空の冒険談を物語ったくらもちの皇子の 心情を想像する。 ・「架空の冒険談」の原文と現代語訳を読む。 ・「いとわろかりしかども」と言った理由につ いて考える。 ・冒険談を語る皇子の心情について考える。	4 ペアで、互いに歴史的仮名遣いの読み方に注意 し合いながら音読する。 作り話が真実かのように伝えるための工夫に 気づいている。 【記述】 原文の内容を踏まえ、根拠をもって自分の考え を述べている。 【記述】
終末 5分	5 本時の学びを振り返りシートにまとめる。	・登場人物の心情を考えながら音読することができた。（第Ⅱ型） ・表現に注目して考えたり、〇〇さんの発言を聞いたりして、うそをつくずるい行動の裏には姫 への強い思いがあるということに気づいた。（第Ⅲ型）